

防除暦採用の事例紹介



和歌山県有田川町 JAありだ 営農販売部 営農指導課 課長 吉川敏之さん

品質を左右する春先の防除に。速効性が決め手です。

温州みかんの生産量は9万トンと国内トップを誇るJAありだ管内。排水性の良い急傾斜地が多いことから、品質の高いみかん栽培に適した歴史ある産地で、地域ブランド「有田みかん」は全国にその名を知られる存在です。

その高品質を支える病害虫防除への取り組みについて、営農指導課の吉川課長にお聞きしました。長年にわたり同JAの「柑橘類防除基準」にロディー乳剤が採用されているのは、どのような理由なのでしょう。

「ロディー乳剤は、新梢伸長期から開花初期での基幹防除殺虫剤として採用しています。春先は、ヨモギエダシャクなどのシャクトリムシ類、ヒメヒラタケシキスイなどのケシキスイ類による被害防止が最重要。ヨモギエダシャクは葉や子房を食害し、ヒメヒラタケシキスイは脚の爪で子房をひっかいて傷をつけるので、果実が生長したときにその傷も大きく広がり、

商品価値が低下します。ロディー乳剤は、これらの害虫に速効性があり、春先の防除に有効なんです」。

ロディー乳剤は基幹防除としての採用のほかに、カメムシ類発生時の対象別防除にも採用。果実に甚大な被害をもたらすチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシなどの発生時に使用されています。

また、吉川課長は、自宅で栽培する苗木にもロディー乳剤を愛用していらっしゃいます。

「チョウ目害虫などが生育期間に飛来します。苗木の新芽を食害されますので、速効性が問われるんですね。だからロディー乳剤は最適なんです」。

速効性と幅広い害虫への効果をもつロディー乳剤をこれからも上手に活用していきたい。そう話す吉川課長の表情から、トップ産地の熱い思いが感じられました。

防除対象	防除時期	防除薬剤	防除回数
新梢伸長期～開花初期	シャクトリムシ類 コアオハナムグリ・ケシキスイ類	ロディー乳剤	2,000倍
カメムシ類 発生時		ロディー乳剤	2,000倍



キャラクター「ミカピー」がデザインされた業務車両